

Rに関係することも毎年何名かにはさせております。

このように、OR教育は教科の中で系統的には行なわれていないのが現状ですから、OR教育をぜひ充実させなければいけないと考えています。私自身ORの専門の教育を受けておらず、単にドロナワ的に少し勉強しただけで、OR的感覚が身についているとも思えないOR落第生ですので、あまり強いことも言えません。ただ、私

の専門が情報工学・計算機工学であり、学内ではORにいちばん近いところにいる(らしい)ので、何とかしなければと思っています。OR教育をもっと充実させるためには、どのような戦略をとるのが最適かというORには格好の課題をかかえているわけです。私にはとても定式化できそうもないむずかしい問題です。どなたか最適の解を教えてくださいませんか。(大川 知)

小さな工業大学の一隅から——足利工業大学 経営工学科

1. 足利工業大学とは

私どもの大学は、同名の学校法人の一部であり、したがって私立大学である。法人は昭和60年度をもって設立60周年を迎える。女子高校(旧女学校)、幼稚園、男子高校、工業大学、短期大学がこの順に設立された。これはわが国の教育の普及と歩を一にしているようである。工業大学は英名を Ashikaga Institute of Technology といい、昭和42年に機械・電気・建築の3学科で発足、48年に土木と経営が増設された。学生数2400名程度のささやかな規模である。この起りは、地元のために技術者養成の大学を、という地域社会の要望に応えた由で、はじめから建築学科をもったのは私には驚きであった。さらに設立母体が足利市内17カ寺から成る和合会(この名は仏典の一味乳水・一味和会に由来する)であり、設立基金が托鉢によるものであることは、一般の場合と異なるであろう。したがって建学の精神は、聖徳太子十七条憲法冒頭の「以和為貴」である。また式典ではよく、小野篁の創始に成るとされる足利学校が引合いに出される。確かにこれは、学校と名のつく日本最初の教育機関であったし、門の扁額「入徳」は大学の「初学入徳之門也」から採られたようだが、現代人の見失ないがちな何かを示しているようにさえ見える。

いわば環境条件に比較的恵まれており、経営もまず適切といってよろしい。設備はまだ不十分だが、これは時を籍さねばなるまい。とすればここで、誰がどのように、何を為しているか、また今後為すべきかが問われる。これはすぐれてOR的な問いである。

2. 何を為すべきか

このような小さな組織体であっても所定の必要十分条件は具足せねばならず、その意味で全体が雑多な混合組織になっている。教授のあいだに官界・実業界の経験者の多いことも1つの特色であろうし、世界レベルで知ら

れた方も何人かおられる。大学の教員は教育者と研究者というある意味で二律背反的な要求を課されており、制約条件もそれなりにきつい。私立大学の集まりにおいても研究の充実がいわれているが、私どももご多分に洩れないし、人口を基本とする長期予測も安易を許さない。

そこで現在のように専門が細分化し、学際化が進む学問と社会の中で、いかなる教育をほどこせば効果的であるのか。ここに効果とは必ずしも即効を意味しないから、それだけに十分な見識・力量が要求される。学生の素質も問題ではあるが、これも時代的な与件であり、私などには率直な若者たちは孫のごとく可愛い。この若者たちを何とかしなくてはならないが、私の願いの1つは若手の教師たちの一層の奮励である。学生にとり教師は隔絶した存在であるが、しかも相談しやすいのでありたい。豊かで平穏な社会に成人し、これから成人する人々に何が真に必要なのであるか。偶然ながら本学には、成立の由来もあって教養課程に宗教学が設けられている。1つは「比較宗教学」他は「仏教学概論」である。工業大学としては珍しいが、今日の世界を理解する良い手がかりを与えるものと期待している。特に私には、原始仏教と近代自然科学の論理のいちじるしい類似が、調べるほどに印象的である。

このささやかな大学にも姉妹校がある。中国浙江省杭州の浙江工学院である。本格的交流はこれからだが、今日までの経過でも彼らの熾烈な「現代化」意欲とともに、学問・技術水準の差がわかる。私なども従来のに加えて、中国語の文献に親しむことが多くなった。鄭院長は私に「老驥伏櫪、志在千里」と書いた。これに後段の「烈士暮年、壮志不巳」(魏書)を加え、孜孜として研究をつづけねばなるまい。個々の業績を紹介する余白もないが、学問、教育ともに烈しい競争社会に在る、という認識を根底として、ささやかな学園を紹介した次第である。

(池浦孝雄)